

## 073 グリーンベルト整備推進のための砂防とそれ以外の分野との連携について

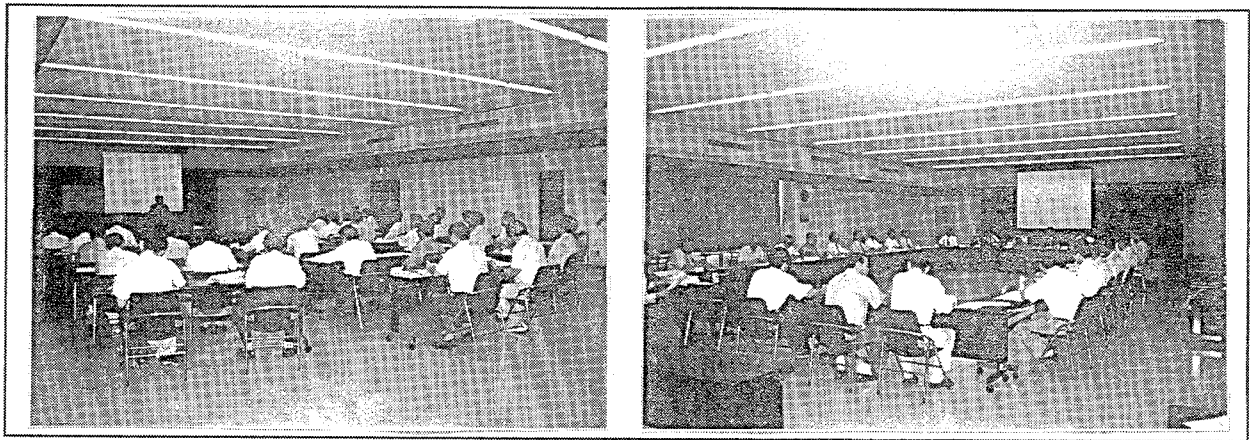
長野県土木部砂防課 堀内 成郎 竹村 正  
(財)砂防フロンティア整備推進機構 田畑 茂清 ○池山 正明

### 1. はじめに

都市山麓には土地所有者をはじめとして様々な人々が関わりを持っており、多様な土地利用が展開されている。そのため、グリーンベルト整備の推進においては砂防以外の部局や地域住民等と「連携」していくことが必要不可欠である。

長野県諏訪湖周辺のグリーンベルトでは、行政関係者や地域住民代表等が参加する「岡谷・諏訪・下諏訪グリーンベルト検討会」を開催し、講演や参加者による意見交換により、この「連携」について検討がなされた。

今回の研究発表は、この内容を踏まえて、グリーンベルト整備推進のための「連携」について発表するものである。



写真：岡谷・諏訪・下諏訪グリーンベルト検討会

### 2. 砂防部局の役割

「岡谷・諏訪・下諏訪グリーンベルト検討会」では、グリーンベルト推進における砂防部局の役割として「①調整」「②支援」「③砂防・地すべり・急傾斜事業」の三つが示された。

#### ①調整

グリーンベルト整備推進において、砂防部局は調整役となることが最も重要であり、まず以下の情報を把握しなければならない。

- ・砂防以外の部局が持つグリーンベルトに関連する事業・施策
- ・グリーンベルトに関連すると思われる住民団体・企業等

そのため、これらの情報をまとめた「ハンドブック」を作成し、これを用いて砂防以外の部局や地域住民等との「調整」を行う。

#### ②支援

次に、砂防部局が何らかの「支援」を砂防以外の部局や地域住民等へ行うことにより、グリーンベルト整備推進は一層積極的なものとなる。

この「支援」の内容については、砂防以外の部局や地域住民等が「支援」として何を要望しているかを担当者レベルで把握することが大切である。

### ③砂防・地すべり・急傾斜事業

各事業の必要箇所については積極的に予算確保をし、内容もグリーンベルトに相応しい「緑」をキーワードとしたものにする必要がある。

### 3. 岡谷・諏訪・下諏訪グリーンベルトにおける連携

以上の3本柱を主としてまとめていく中、様々な意見が出された。その一部を以下にまとめる。

連 携	所 属	意 見
良好な緑の保全等に関する連携	長野県諏訪地方事務所林務課	諏訪地域は保安林が少ないので、土地所有者の同意を得ながら保安林指定を進めていきたい。
	建築士会 諏訪支部	自然公園法や景観条例等により「緑を残す」ことを心がけなければならない。
	諏訪市 公園緑地課	公園整備においても、その土地に合った災害に強い樹種を植えることが必要。
「開発」に関する調整	信州大学 教育学部	山麓斜面の開発は災害発生の要因を新たに作ることとなる。現在の住宅地より上部については開発を進めないという規制が必要。
	岡谷市 建設部	岡谷市は人口増加策・新規工業立地等を検討しているが、可住地が狭いので、山麓斜面における「緑と共生した高度利活用」の知恵を出していくことが必要。
	岡谷市 土木公園課	都市がどこまで発展するかを見極め、緑を守ることとの調整を行っていくことが必要。
地域住民、ボランティア等に関する連携	長野県自然観察インストラクター	周囲を山麓に囲まれているが、森林の中は荒廃している(「緑の量はあるが、緑の質は豊かでない」)ので、森林の荒廃した状況等を住民に情報提供することによって、子孫に良い森林を残すというようなボランティア活動の機運を高めていくことが必要。
	長野県景観アドバイザー	地域住民にグリーンベルトの理念を理解していただき、協力していただけるようコンセンサスを得ることが何よりも優先されなければならない。
	下諏訪町 区長会会長	地域住民へ情報を提供し、調整し、地域住民の持つエネルギーを吸い上げることによってグリーンベルトの成果が上がる。

### 4. おわりに

グリーンベルトのような広範囲に渡る「連携」は、これまでの砂防部局の仕事において行われていないものである。今後、グリーンベルトという名の下に砂防部局に課せられた責任は非常に重大であるといえるだろう。